様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：１７７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５４６３２５５

研究課題名（和文）地域基盤型医療プロフェッショナリズム教育の構築

研究課題名（英文）Development for community oriented medical professionalism education program

研究代表者
田口　則宏（Taguchi, Norihiro）

鹿児島大学・医歯学域歯学系・教授

研究者番号：３０３２５１９６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：医療プロフェッショナリズムについて地域歯科医療の視点から求められる能力の構成要素を明らかにし、歯学教育に活かすことを目指した。開業歯科医、大学教員に「地域歯科医療」に関する質問紙調査を行った結果、その印象は様々だったが、実践に求められる能力は、「医療者としての倫理観」等プロフェッショナリズムが重要であるという点で共通していた。
この知見に基づき、並行して実施していた所属施設でのカリキュラム改革にアウトカム基盤型教育のコンセプトを導入し、平成27年度入学生より運用開始した。ここでは、6年間を通じて地域と関わる多くの授業、実習を設置し、様々な環境でプロフェッショナリズムを学ぶ機会を設けた。

研究成果の概要（英文）：This study aimed at clarification of contents in community oriented medical professionalism and their application for dental education. The result of questionnaire survey about community dental service for dental practitioners and university dentists showed various view for it, however, they recognized the importance of medical professionalism such as health professions' ethical perspective in common.
These results were used for undergraduate dental curriculum reform based on outcome-based education in our institute and the curriculum started for 1st grade dental students from April 2015. Many kind of lecture and practical training in which students engage community were developed and many chances for students to learn professionalism in various environment were provided through six years undergraduate education.

研究分野：歯学教育学

キーワード：医療プロフェッショナリズム教育　地域・離島歯科医療

１．研究開始当初の背景

医に求められる規範に対する考え方は、過去より様々な変遷をたどっている。「ヒポクラテスの誓い」に始まる「医療規範」、「医の心」は、長きにわたり欧米の医学部卒業式などで宣誓されてきたが、近年、医療におけるプロフェッショナリズムを意識した医療教育の重要性が提唱されるようになり、海外では米国内科専門医会による Project Professionalism（1992）、新ミレニアムにおける医療プロフェッショナリズム：医師憲章（2002）などが発表されている。我が国においても、昨今の医療を取り巻く社会的環境の変化に後押しされて、「医療プロフェッショナリズム教育」の重要性が注目されてきている。この考え方の特徴は、いつの時代でもいかなる場所でも、医療者として常に意識しておかねばならない点である。このような背景のもとで、医療者に求められる「規範（＝医療プロフェッショナリズム）」の定義付けが行われている。このような確固とした「プロフェッショナリズム」をもつ医療者を育成するためには、それに見合った教育プログラムを立案し実践する必要がある。我が国においては、ようやくその実践が始まってきているが、その教育方法は施設によって試行錯誤を繰り返している段階である。さらにその教育効果を測定する評価方法については、十分な知見やエビデンスが得られていないのが現状であり、その整備が急がれている。

２．研究の目的

（１）研究１

医療の最大の目標は、患者に「健康」を基盤とした「幸福」を提供することであり、それを様々な形で支援することである。患者の幸福観は多様であり、まずは個々のそれらを明らかにする所から医療は始まるといっても過言ではない。その上で、患者の医療に対するニーズは、医療を進めていく上での原点であり、地域に暮らす患者の生活そのものに医療者としてのプロフェッショナリズムの原点も存在すると考えられる。本研究では、地域基盤型歯科医療を実践する上で、そこで学ぶべき「能力」や「態度」などを明らかにする。

（２）研究２

前項の調査で明らかとなった「能力」について、研究代表者の所属施設における歯学教育カリキュラムに、地域志向型医療者育成における「医療プロフェッショナリズム」を涵養する教育プログラムを構築する。

３．研究の方法

（１）研究１

地域歯科医療教育に対するニーズは、実際に医療を受ける市民、および地域において医療を提供する開業歯科医などから情報を得る必要がある。本研究では、鹿児島県歯科医師会の協力を得て、同会に所属する開業歯科医 830 名を対象にアンケート調査を行った。調査は平成 26 年５月に質問紙を各会員へ郵送し、返信用封筒を同封し無記名で返信してもらった。併せて、全国 29 大学歯学部、歯科大学に対して、地域歯科医療教育の実施状況について質問紙調査を実施した。対象は、各施設の教育に責任のある立場の教員（学部長、教務部長、分野長等）とした。調査は平成 27 年３月に質問紙を各施設に郵送し、返信用封筒を同封し無記名で返信してもらった。

（２）研究２

研究代表者の所属施設では、本科学研究の進行と同時に、学士課程教育カリキュラムの大幅な改革について検討を進めていた。カリキュラム改革のモデルとしたアウトカム基盤型教育におけるカリキュラム開発は、Carraccio らの報告を参考に２段階（１段階目：コンピテンシーの確立、２段階目：コンピテンシーの構成要素とパフォーマンスレベルの検討）で行うこととした。ここで用いる「コンピテンシー」とは、教育目標分類学

に基づいた３つのドメインから構成される従来型の教育（学修）目標の概念とは異なり、知識、技能、態度を包含した、複数の要素から構成される能力観である。カリキュラム開発の１段階目のコンプテンシー確立については、Dunn らの報告をもとに、本研究における成果と過去の知見をベースに、最近の卒業生、現在の在学生の意見とともに、本学教職員のワークショップでの提案を加味してコンピテンス、コンピテンシーの原案を作成した。さらに第２段階目として、構築したコンピテンスを６年間の学士課程教育最終段階で修得させるための一貫したカリキュラムデザインを検討した。

４．研究成果

（１）研究１

開業歯科医対象に、大学における地域歯科医療教育ではどのような内容の教育が必要と考えるか、との問いに対して多肢選択式（複数選択可）で回答を求めた結果、最も多い回答が「医科歯科連携」であった（図１）。

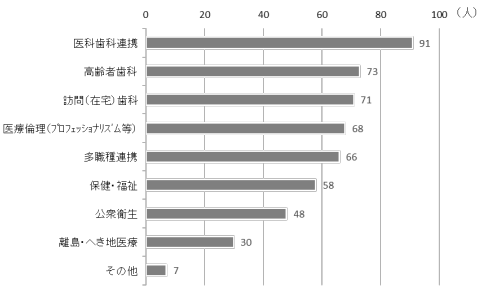

図1　大学における「地域歯科医療」教育では、どのような内容の教育が必要だ考えるか？（複数回答可）

また、図２に大学における「地域歯科医療」に特化した科目の教育は、誰が担当するのが

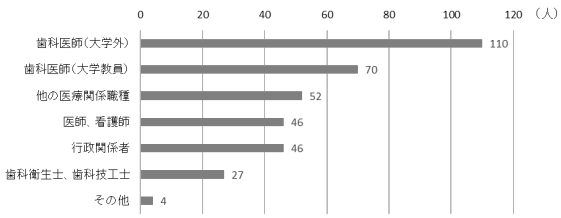

図2　大学における「地域歯科医療」教育では、誰が担当するのがよいと考えるか？（複数回答可）

良いか、との問いに対して多肢選択式（複数選択可）で回答を求めた結果を示す。最も多い回答が「歯科医師（大学外）」であった。

またこの内容は、６年間の学部教育のどの時期に教育を行えばよいと考えるか、については大半が５～６年生の卒直前、および卒直後と回答していた。将来の「地域歯科医療」を担うために欠かせない医療者の資質にはどのようなものがあるか、について自由記載で回答を求めたところ、「医療人として必要な人間性（思いやり、やさしさなど）」が最も多く、次いで「地域の方とのコミュニケーション」、「医療人としての倫理観」、「幅広い知識」、「向上心を持つこと」などが挙げられた（図３）。

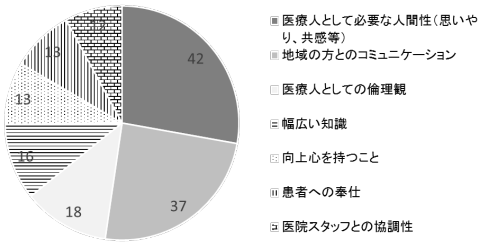

図3　将来の「地域歯科医療」を担うために欠かせない医療者の資質はどのようなものであると考えるか？（複数回答可）

大学対象の調査については、全国 29 大学歯学部、歯科大学に対して回答を依頼した結果、21 大学より回答が得られた（回収率 72.4%）。地域歯科医療教育に特化した独立科目を設置していると回答したのは 21 大学中５大学であった。また開講時間は４～48 時間（１時間＝45 分）と大学によって大きな幅が求められた。この科目を担当する組織については、総合歯科学、歯科補綴学、予防歯科学、小児歯科学、社会歯科学、地域連携歯科学、歯学教育学など、大学によって様々であった。本科目における他学部、他大学等との連携については８大学で実施されており、連携先としては自大学の医学部、薬学部、保健系学部、看護系学部や、自大学附属の医療系教育センター、他大学歯学部、一般歯科診療所、地方

厚生局などとともに、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業における連携大学なども挙げられていた。本科目における教育方法については、図４に示す通りもっとも多かったのが「講義」で 16 大学、ついで「グループワーク」が９大学であった。また学外実習については、もっとも多かったのが「高齢者施設」で 13 大学、次いで「歯科診療所」で９大学、「在宅診療」で７大学などであった。

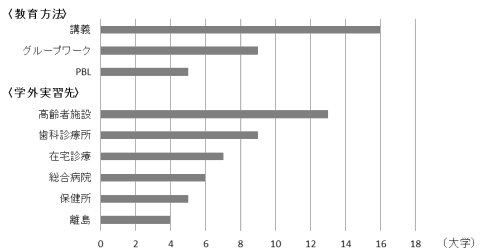

図4 「地域歯科医療」を取り扱う授業科目では、主にどのような教育方法を用いているか？（複数回答可）

本科目と「医療プロフェッショナリズム教育」との関連について尋ねたところ、本科目において「医療プロフェッショナリズム」が教育目標に含まれるか、については 12 大学が「含まれる」と回答していた。また、「地域歯科医療」教育を取り扱う科目において「医療プロフェッショナリズム」を教育目標に入れることの妥当性については、14 大学が「妥当である」と回答していた。

（２）研究２

研究１の成果、および学内での検討をもとに、５つのコンピテンス（Ⅰ．歯科医師の職責とコミュニケーション、Ⅱ．歯科医学および関連領域の知識、Ⅲ．医療の実践、Ⅳ．地域医療とヘルスプロモーション、Ⅴ．生涯学習と科学的探究心）、および下位項目として 29 のコンピテンシーを作成した。特に、地域基盤型プロフェッショナリズム教育を目指すコンピテンスとしては、上記Ⅰ、Ⅱとし、関連する複数の科目を新設し配置した。アウトカム基盤型教育では、最終的なコンピテンシーを修得させるためのプロセスは一通りではなく、様々な学習機会を設定して繰り返し学ぶことを推奨している。また、その学習は単純な学習内容から徐々に高度化していくなど、学習の順次性への配慮も重視したデザインとし（図５）、平成 27 年度入学生から新カリキュラムを導入した。報告書作成時点では、新カリキュラムは 1 年次のみの適用であり、その効果や成果は十分示されていない。今後学年進行に伴いカリキュラム改変していく中で、随時検証し、より効果的な教育カリキュラムを構築していく予定である。

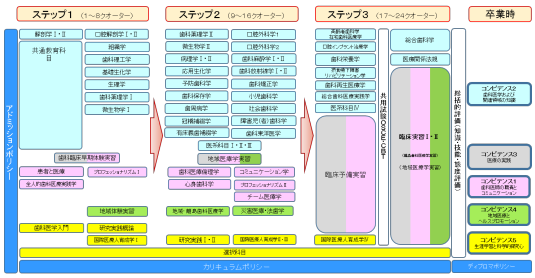

図5. 鹿児島大学歯学部のカリキュラムマップ

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 13 件）

１．田口則宏，前野哲博，河野博史，中桶了太：地域歯科医療における人材育成の現状と展望，日本歯科医学教育学会雑誌 31，120 - 122，2015．査読有

２．Kono H, Sasahara H, Furukawa S and Taguchi N：An analysis of background factors influencing selection of residency facility for dental students in universities located in rural areas in Japan，The Open Dentistry Journal 9, 159－167，2015. 査読有

３．Oto T, Obayashi T, Taguchi N and Ogawa T：Study of factors related to the reflection abilities of dental trainees. European Journal of Dental Education，in press. 査読有

４．吉田礼子，石井宏明，古川周平，岩下洋

一朗，田口則宏：離島巡回診療研修に対する研修歯科医の意識について，日本総合歯科学会雑誌 7，36－41，2015．査読有

５．Yoshida T, Ogawa T, Taguchi N, Maeda J, Abe K, Rodis O M, Nakai Y, Torii Y, Konoo T and Suzuki K：Effectiveness of a simulated patients training programme based on trainee response accuracy and appropriateness of feedback,European Journal of Dental Education,18,241－251,2014.査読有

６．Oto T, Obayashi T, Nagatani Y, Nishi H, Ohara M and Ogawa T：Effect of theatrical interprofessional education program, European Journal of Dental Education 19, e24, 2014. 査読有

７．笹原妃佐子，大戸敬之，島津　篤，二川浩樹，杉山　勝：研修歯科医による大学新入生に対する歯科健診と禁煙教育，日本歯科医学教育学会雑誌 30，35－43，2014. 査読有

８．藤井規孝，田口則宏，長谷川篤司，木尾哲朗，多田充裕，小川哲次，樋口勝規，伊藤孝訓：大学における総合歯科の現状と展望，日本歯科医学教育学会雑誌，29(2)，3－13，2013. 査読有

９．中山 歩，岩下洋一朗，田松裕一，田口則宏，島田和幸：CBT 問題作成が教員意識に与える影響，日本歯科医学教育学会雑誌，29(2), 14－19，2013. 査読有

１０．松本祐子，岩下洋一朗，吉田礼子，諏訪素子，志野久美子，河野博史，田口則宏: 鹿児島大学学生歯科検診時に実施した学生対象アンケート調査結果，鹿児島県歯科医師会報 111(690), 8－10，2013. 査読無

〔学会発表〕（計 12 件）

１．田口則宏、地域医療における人材育成の現状と展望、第 34 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会シンポジウム、2015 年 7 月 10 日、鹿児島県鹿児島市

２．石井宏明、柿内貞之、永沢貴丈、錦 貴弘、野木武洋、吉田礼子、岩下洋一朗、田口則宏、離島巡回診療研修に対する研修歯科医の意識について、第 7 回日本総合歯科学会総会・学術大会、2014 年 11 月 29 日、大阪府大阪市

３．田口則宏、離島地域を基盤とした地域歯科医療教育の開発、課題解決型高度医療人養成プログラム「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」キックオフシンポジウム（依頼公演）、2015 年 2 月 14 日、岡山県岡山市.

４．田口則宏、小松澤均、南　弘之、河野博史、志野久美子、吉田礼子、松本祐子、岩下洋一郎、中山　歩、地域・離島歯科医療実習充実に向けたカリキュラム開発の試み、第 33 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会、2014 年 7 月 4 日、福岡県北九州市

５．古川周平、田口則宏、河野博史、岩下洋一朗、地域基盤型医療プロフェッショナリズム教育の構築に向けて－開業歯科医師からのニーズ分析－、第 7 回日本総合歯科学会総会・学術大会、2014 年 11 月 29 日、大阪府大阪市

〔図書〕（計２件）

１．田口則宏　他、日本歯科医学教育学会白書作成委員会編集、歯科医学教育白書 2014 年版、2015、73－77

２．田口則宏（分担翻訳）、篠原出版新社、医学教育を学び始める人のために、2013、77－92

〔産業財産権〕
なし

〔その他〕
なし

６．研究組織

（１）研究代表者

田口　則宏（TAGUCHI Norihiro）

鹿児島大学・医歯学域歯学系・教授

研究者番号：　３０３２５１９６

（２）研究分担者

志野　久美子（SHINO Kumiko）（石川久美子）
鹿児島大学・医歯学域医学部・歯学部附属病院・助教
研究者番号：　５０３２５７９２

河野　博史（KOUNO Hiroshi）
鹿児島大学・医歯学域医学部・歯学部附属病院・助教
研究者番号：　２０５０７１６５

吉田　礼子（YOSHIDA Reiko）
鹿児島大学・医歯学域医学部・歯学部附属病院・助教
研究者番号：　６０２４４２５８

小川　哲次（OGAWA Tetsuji）
広島大学・病院（歯）・教授（平成 27 年 4 月より名誉教授）
研究者番号：　５０１１２２０６

笹原　妃佐子（SASAHARA Hisako）
広島大学・医歯薬保健学研究院・講師
研究者番号：　４０１４４８４４

（３）連携研究者
木尾　哲朗（KONOO Tetsuro）
九州歯科大学・歯学部・准教授（平成 26 年４月より教授）
研究者番号：　１０２０５４３７